

誇りと活力あふれる 夢(まち)づくりを目指す

令和4年第1回町議会定例会が3月8日から11日まで開かれ、令和4年度予算案などが審議されました。
徳永町長が行った町政執行方針と、岩原教育長の教育行政方針の概要をお知らせします。



令和4年度町政執行方針
町長 徳永 哲雄

コロナ禍に勝ち、強い弟子屈町へ

第5次弟子屈町総合計画は令和3年度をもって計画期間を終え、令和4年度からは第6次となる弟子屈町総合計画がスタートいたします。

第6次総合計画においては、これまで推進してきた基本的な理念を継承しつつ、次代の若い世代が暮らしの中で、より「夢」や「希望」を持っていただけるようなまちづくりの取り組みを進め、すべての住民の



第6次弟子屈町総合計画策定審議会からの答申

皆さんに、「豊かさ」や「幸せ」を感じることができ、持続可能なまちづくりを推進します。

特に新型コロナウイルス感染症の影響により、まちの動きそのものが停滞していますので、まずは「コロナ禍に勝ち、強い弟子屈町」へ導くための取り組みを進めます。

また同時に、持続可能なまちづくりを推進するため、中心市街地再構築や川湯温泉街の再生、アイヌ政策などによる新たな形のまちづくりを進めます。

また、基幹産業である農業と観光については、発展とさらなる連携を

環 人と自然が共生する夢づくり

環境保全の推進

- ▼ 弟子屈町温暖化対策実行計画（区域施策編）を新たに策定。
- ▼ 地熱資源開発事業を行っている湯沼アトサヌプリ地区で、これまでに最も深い2千700m級の井戸1本を掘削。
- ▼ ペットボトル圧縮処理施設を建設し、圧縮処理を推進。
- ▼ 摩周湖環境保全連絡協議会によるクラウドファンディングなど

- ▼ を活用し、摩周湖の長期的な保全を目的とした水質モニタリング調査活動などを継続。
- ▼ 多様な生物と共生するため、森林の保全、特定外来植物対策、野生動物対策を実施。
- ▼ 本町の景観を守り、次世代へと継承するため、景観計画を踏まえた統一感をもった景観づくりを推進。
- ▼ 釧路川ふれあい広場利用者が利用しやすいようトイレ棟の新設など環境整備を推進。

生活環境の充実と向上

- ▼ 防災を担う新たな専門職員を配置し、多様化する災害に対応し得る専門知識の継承、関係機関との連携を強化。



「てしかがゼロカーボンシティ宣言書」を掲げる徳永町長、川越久史環境省釧路自然環境事務所長(左)、菅原裕之釧路総合振興局長(右)

- ▼ 管理不全の空き家対策の実施。
- ▼ 弟子屈消防と統合した川湯消防支署の改修や老朽化した高規格救急自動車を更新。
- ▼ 防犯対策や交通安全推進のため、関係機関と協力し、啓発活動を実施。
- ▼ 弟子屈消費者協会、弟子屈警察署をはじめとする各関係機関と情報共有し、消費者の安全と安心の確保を推進。

環境と共生する基盤の整備

- ▼ 中心市街地再構築事業として、(仮称)地域観光交流拠点施設の運営と基本設計を行う事業者を公募。
- ▼ 弟子屈原野9線防雪柵新設を継続。新たに奥春別西10号三笠線防雪柵新設を実施。
- ▼ 鑑別下鑑別線舗装補修工事を実施。
- ▼ 橋梁長寿命化計画に基づき、下仁多橋の改修と既存橋梁の点検や修繕を計画的に実施。
- ▼ 住宅環境の充実では、敷島団地1棟4戸、鑑別団地1棟4戸の建設や、緑団地及び古丹団地についても令和5年度の建設に向け調査等を実施。
- ▼ 住宅建設促進事業および民間賃貸住宅の建設・リフォームなどに対する支援を拡充。
- ▼ 活用できる空き家の調査を実施

- し、空き家バンクなどでの活用を推進。
- ▼ 上水道事業、農業用水道について、引き続き管路の耐震化を実施。
- ▼ 温泉事業では、各泉源の揚湯管工、アー管の入替や貯湯槽の更新。
- ▼ 供用開始後20年が経過している弟子屈浄化センターの機械電気設備の更新・耐震化のための実施設計を実施。
- ▼ 下水道計画区域を除く地域での合併処理浄化槽設置費用の一部助成を継続。
- ▼ 公共交通の維持と、鉄道やハイヤーなどの連携による利用促進を推進。
- ▼ 観光周遊交通としての交通体系確立と公共交通との連携による利活用を促進。

活 活力・活気・雇用を生み出す夢づくり

基幹産業の更なる強化

- ▼ 道営草地畜産基盤整備事業弟子屈地区の圃場整備を継続。
- ▼ 国営総合農地防災事業による、圃場の機能回復のための、生態調査や土壌調査などを実施。
- ▼ 弟子屈町農業担い手育成センターにおいて、就農に向けた研修から就農後の経営指導などのサポートによる担い手確保を推進。

- ▼ 馬鈴薯の病害虫対策、てん菜・ソバの湿害対策として畑作構造転換事業を推進。
- ▼ 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業による、畜産・酪農の規模拡大や農業経営の安定・強化を推進。
- ▼ 畑作パートバンクや酪農ヘルパーの利用組合に対して支援を継続。
- ▼ スマート農業の導入のため、国の事業を活用し、農業者の取り組みを支援。
- ▼ 摩周メロン・摩周そば・摩周和牛の安定生産やブランド力の強化ため、流通対策や戦略的PRを実施。
- ▼ 令和5年度弟子屈ワイン醸造所建設に向け、建設予定地の確保や詳細設計を実施。
- ▼ 弟子屈町らしい特色あるチーズを製造・開発し、特産品としてブランド化を推進。
- ▼ 町森林整備計画に基づき、国や道の補助を活用し、間伐・植栽を実施。
- ▼ 木材高騰が続く中、伐期を迎えた森林の施策を実施し、積極的な活用を推進。



▽DMO（観光地域づくり法人）によるブランディングやマーケティング、宣伝活動などの強化を支援。

▽国立公園満喫プロジェクトによる川湯温泉街の景観整備や観光地磨き上げ、アクティビティの充実を推進。

▽国立公園満喫プロジェクトを進める廃屋撤去後の跡地利用などで連携し、川湯地区の再生を推進。

雇用を支える産業力の上

▽商工業の活性化のため、金融政策を充実、事業継承と起業支援、町内の空き店舗の活用など、商工会などの関係機関と連携し推進。

▽屈斜路湖の資源保護や産業の確立のため、調査・計画作りを進め、将来の漁業協同組合設立を目指した取り組みを実施。

▽釧路北部雇用創造協議会を中心に、新たな雇用につながる企業向けの講習会や新規雇用希望者とのマッチングなどを実施。

▽商工会など各団体と連携して、就職氷河期世代の雇用対策事業を実施。

▽企業振興促進条例を充実させ、新たな事業所や宿泊施設の誘致を推進。



育 豊かな心を育て、文化を大切にす

学び環境の充実

▽子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実。

▽地域住民や保護者と連携・協働し、信頼される学校づくりを推進。

▽ふるさと学習やキャリア教育の実を図り、郷土への愛着を深めることができるよう、各学校で特色ある教育活動を実施。

▽運動やスポーツに親しむ機会や望ましい生活習慣の定着を推進。心の悩みや不安に寄り添う相談体制を充実。

▽学校給食の無償提供を継続。▽就学援助としてオンライン学習に要する支援などを継続。

▽弟子屈高校生徒へ、公営塾の運営や姉妹都市である鹿児島県日置市への修学旅行費の支援など各種支援を継続。

▽高校の新学習要領の実施によるタブレット端末の導入に対して支援を実施。

生涯学習の推進と文化の継承

▽青少年の健全育成のため、学校、家庭、地域の連携を強化し、次世代を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進。

暮 誰もが安心して暮らせるまちづくり

健康づくりの推進と医療の充実

▽「元気でしかが21」に基づき、特定健診や各種がん検診の受診率向上を推進し、受診された方や紹介者へのポイント還元を継続して実施。

▽新型コロナウイルス感染症の影響による医療機関への受診控えがないよう啓発を強化。

▽生後1〜5歳までの乳幼児を対象に「おたふくかせ」予防接種における費用の一部を助成。

▽各種予防接種費用助成の継続実施。▽自殺者減少のための「いのちを支える弟子屈町自殺対策計画」に基づく取り組みを推進。

▽地域医療の中核である摩周厚生病院に対する支援を継続。

▽新型コロナウイルスワクチン接種の計画的な実施。

子育て・福祉環境の充実

▽地域全体で支え合いながら暮らしることができるよう、各種団体や地域住民の支え合い体制を充実させ、福祉を支える人材の確保と育成を推進。

▽生活困窮者やひとり暮らしの高齢者などが、自立し安定した生活が送れるよう支援を実施。

▽文化・体育関係団体との連携や、全道・全国大会出場への助成を継続。

▽スポーツを親しむための環境整備を推進し、文化財や郷土芸能の保存・伝承活動への支援の継続。

▽アイヌ文化振興のため、開館40周年を迎えるアイヌ民族資料館を拠点に、屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業を実施。

▽町史編さんに向けた資料収集、調査を継続。

協働の推進

▽地域の魅力を高める人材として活動中の地域おこし協力隊員への支援を継続。新たに移住対策支援員として新隊員を採用し、さらなる移住対策を推進。

▽男女平等参画社会を推進し、さらには年齢や性別、人種・宗教・趣味趣向などさまざまな属性の人たちが活躍できるまちづくりを推進。



地域の魅力を高める貴重な人材となった協力隊



子どもたちの「夢」を叶えるまちづくり

▽古丹生活館やコタン共同浴場は、アイヌ政策推進交付金を活用し、必要な施設整備などの詳細設計を策定。

▽出産と育児の支援体制を充実させ、産前・産後ケア事業と産前・産後サポート事業を継続。

▽赤ちゃんすくすく応援券交付事業を継続。

▽高校生までの医療費実質無料化を継続。

▽保育園や認定こども園の保育料と副食費を完全無償化。

▽特定教育・保育等利用に係る実費徴収補給給付事業を継続。

▽こども食堂など、官民一体となった「子どもの居場所づくり推進事業」への支援を継続。

▽子育て支援センターにおける育児での孤立や不安解消につながる

交流の推進

▽自治会が行う各種活動や地域コミュニティ施設の活用を支援し、自治会の加入率向上を推進。

▽地域づくり活動支援事業補助金を活用し地域活動を推進。

▽令和5年度に盟約40年を迎える鹿児島県日置市との姉妹都市交流に向けた相互交流の推進。

▽移住対策として、関係人口（観光客、ふるさと納税者、SNSの登録者など）を増やし、当町の魅力を移住につながる取り組みを推進。

▽人権相談窓口の開設、子どもたちへの人権教室などを開催し、人権意識の啓発を推進。

▽北方領土返還運動や戦没者慰霊事業を通し平和への取り組みを推進。

公 誰でもまちづくりに参加することができる

安定した行財政運営

▽さまざまな研修制度を活用し職員的能力、資質の向上を図る。

▽町税の、各種滞納処分強化啓蒙活動を実施し税収を確保。

▽ふるさと納税の一層の返礼品の充実と、寄付者への使途と情報提供を実施。

▽放課後児童クラブで保護者が負担しているおやつ代を無償化。

▽放課後児童支援員の研修を充実させ、学校との連携を強化。

▽要保護児童対策地域協議会を中心に、関係機関との連携を密にし、一層児童虐待対策やその防止を推進。

▽高齢者の生活全般の、包括的で継続的な支援を行う地域包括ケアシステムを推進。

▽高齢者総合相談支援体制の充実、住み慣れた地域で暮らせる支援を実施。

▽第6期障がい福祉計画などに掲げた各種施策を推進。

▽福祉用具の給付や相談支援などの各種サービスを継続し、障がいのある方が地域で自立して安心して暮らせるよう、社会参加支援と相談支援体制を充実。

▽こども発達支援センターを中心に、療育支援を実施。

▽要支援認定者などが、自立して日常生活を送れるよう支援を実施。

▽地域における介護予防に関する知識や情報の提供、啓発活動を行い、サポーターやボランティアを育成。

▽適切な介護予防サービスなどを提供し、地域密着型（介護予防）サービスを提供。

住民と行政の新たな架け橋づくり

▽広報でしかが、町公式ホームページの充実、SNS、テレビのデータ放送などを活用した、町民向けの情報提供を充実。

▽行政のデジタル化や更なる普及、町民の皆さまへの利便性向上によるデジタル・ガバメントを推進。

▽新年度においては、第6次総合計画の基本理念である「全ての住民が、暮らしに満足を感じ、次代に夢を託せるまちづくり」念頭に、未来を見据えた効果的・効率的な施策実施を重点として、厳しい財政状況であっても、町民の皆さまに対し、目配りの効いた財政運営を行います。

今後、さまざまな課題に対応するため、施策を着実に実施することで、第6次弟子屈町総合計画の将来像、『水』と『森』を守り、『人』が共に輝く、誇りと活力あふれる「夢づくりのまち」弟子屈を実現するため、将来にわたり持続可能なまちづくりを全力で進めます。